

台風による水害の体験から

台風の水害から、一年が過ぎました。長い
ようであつたという間だつたように思ます。僕
の家は、旧日高町の赤崎の高台にあつたので
すが十月五日の夕方には、堤防を越して水が
せまつてきました。「祖父が畳を机の上に置
くぞーれと言いました。祖父は机に上げたら
だいじょうぶだろうと思つていたようですが
雨は一向に止まず、避難命令も出ませんで
した。父は、仕事から帰れなくなりました。

父は友人の家に泊めていただきました。夜の
七時頃雨は小やみになりましたが、水かさは
どんどん増えていき、一階の半分まで水がツ
いていました。

僕は何もすることがなくて、ただ垣根にひ
つかかるごみを見ているだけでした。九時頃
になると水が少しづつひき始めました。僕は
安心して寝ることにしました。次の日の朝父
が帰つて来ました。父が言うには、近くの店
が水につき、店の前の農道で車が二台水没し

ていたと言っていました。

僕は、食料の買い出しに行く途中、農道に二台の車が停まっていたのを見ました。一台は、道から畑に落ちかけていて、フロントガラスは割れぼろぼろでした。もう一台は店の前でドロドロになっていました。まさに父の言うとおりでした。そして、家の片づけをしていると大事なものがたくさん出てきました。でも、ドロドロだから捨てなければならぬのです。もったいなく、とても残念でした。

祖母は結婚指環を失ったらしく悲しそうでした。僕もいっしょに探しましたが結局見つかりませんでした。昼頃になると、配給されたおにぎりをもらいに、集荷場まで行きました。そのおにぎりを食べ、その日は夕方の五時頃まで家の片づけをしました。次の日には、ポランテ、アの方や、親戚など、平人もの人が手伝いに来てくれて泥取りなどをしてくれ、きれいになりました。僕は今も多くの人に感謝しています。